

大阪国際サイエンスクラブ

【国際交流懇談会】

第2回 若手研究者の国際研究交流から世界のサイエンス動向を知るセミナー

「ドイツの脱炭素戦略～公正な移行に向けた道筋と無作為抽出の市民参加型の政策形成とは？～」



エネルギー転換を推し進めながら 2045 年までの気候中立を掲げているドイツ。ショルツ政権は、前政権以上に、野心的な政策を掲げています。たとえば、2030 年の自然エネルギー電力供給割合を 65%から 80%に高め、脱石炭を 2038 年から理想的には 2030 年に前倒すなどです。本講演では、まず、自然エネルギー財団での調査を基に、ドイツのメルケル政権下での脱炭素政策・法整備と、ショルツ政権の今後の展望を解説して頂きます。さらに、政策形成過程における、若者を交えた無作為抽出型の市民参加に関する研究についてもご紹介して頂きます。

脱炭素社会への移行で影響を受ける人々の声を聞きながら、誰一人取り残さないインクルーシブな「公正な移行（Just Transition）」への道筋を描くには？気候変動や核のゴミの処分の影響を長期に被る可能性がある若者世代の声を政策に反映させるための方策とは？今回のご講演では、日独比較も交えながら、これまでご経験されたドイツでの留学・研究生活を振り返ってお話し頂きます。

なお、今回は Zoom を活用したオンラインでの講演会とさせていただきます。多数のご参加をお待ちしています。

記

1. 日 時：2022年3月16日（水）17:00～18:30
2. 場 所：Zoomによるオンライン講演
3. 講 師：一柳 絵美 様（公益財団法人 自然エネルギー財団 研究員）
4. テ ー マ：「ドイツの脱炭素戦略～公正な移行に向けた道筋と無作為抽出の市民参加型の政策形成とは？」
5. 参加費：無料
6. 申込み方法：申込書欄に必要事項をご記入の上、e-mail または FAX でお申し込み下さい。

一柳絵美さまのご紹介

自然エネルギー財団研究員。専門分野はドイツのエネルギー政策、市民参加。
 学部生時代のフライブルク大学留学を経て、市民参加型の環境政策への関心を高める。その後、ベルリン自由大学環境政策研究センターで、環境マネジメント修士号取得。
 博士後期課程では京都大学地球環境学舎に在籍し、日独エネルギー政策過程における市民参加などの研究を行う傍ら、ミュンヘン工科大学への交換留学も経験。学生時代にドイツに滞在した期間は 5 年を超える。

自然エネルギー財団では、ドイツの自然エネルギー・気候変動政策を中心に担当。



e-mail : science@isco.gr.jp

または、FAX:06-6441-0459 大阪国際サイエンスクラブ事務局 宛

【国際交流懇談会】

第 2 回 若手研究者の国際研究交流から世界のサイエンス動向を知るセミナー

「ドイツの脱炭素戦略～公正な移行に向けた道筋と無作為抽出の市民参加型の政策形成とは？～」

氏名・団体名：		
所在地：〒		
TEL：（ ） — FAX：（ ） —		
e-mail：		
氏 名	所 属 ・ 役 職	e-mail

※ご連絡頂いた個人情報は、本事業のご案内及び当クラブに関連する講演会・見学会等のご案内以外には使用致しません。